

 シリーズ「きょうだいの思い」 33

『親友』

小学校時代に出会った親友とは、かれこれ30年以上の付き合いになる。彼女は社会人になって保育士となり、結婚を機に高槻を離れて神戸に住んでいる。今は年に一度会えるか会えないかの関係だが、変わらない付き合いが続いている。小・中学生の頃、彼女はいつも私の家に遊びに来ていた。弟に自然に接してくれて、弟が私の友達の名前を初めて覚えたのも彼女である。

若い頃は、よく私の愚痴を聞いてもらっていて、弟の“しんどい時期”には、夜にも関わらず彼女の家に愚痴を吐き出しに行ったりもした。今はお互いが子どもを持つ親の立場になり、子ども時代を振り返りながら『今だから言えること』を話すようになった。

彼女は3人きょうだいの末っ子で、両親は共働きのため小学生の頃から鍵っ子だった。

「いつ、あなたの家に遊びに行っても絶対にお母さんがいて弟がいて、家族の温かさが感じられた」と素直に話す彼女に、私もこう返す。「でも、家にお母さんがいても“私のお母さん”って感じられるのは少なかったなあ。私はやっぱり“お姉ちゃん”で、母は“弟のお母さん”で、家族って感じることは少なかった」

数年前、弟が私の家で大大大パニックを起こした。パニックの原因はわかっていたが、嵐が過ぎるのを待つしかなかった。それまでにも何度か弟のパニックを見てきた我が子だが、やはり子どもに対して申し訳なさと、近所への騒音のこと、そしてパニックの弟を我が家へ預けて、弟が通う施設行事の当番へ出かけようとする母に対しての一定の理解と苛立ち(結果、母は当番を休んだのだが)様々な感情を自分で片付けることが出来ず、親友へ愚痴を吐いた。

私の愚痴メールに、彼女らしい飾らない言葉で返信が届いた。

『家族でないといけない、一緒に暮らしていないといけない、その人にしかわからないよね、何でも。弟のこだわりも弟にしかわからないんやろうな。一つだけ言えるのは、あなたの子供達はあなたのことをしっかり見てるよ。弟のことをどんなに大事にしてるか肌で感じてるで。私は小さい頃、祖母の介護に付きっきりだった母に構ってもらえない寂しさから、年寄り嫌いだった。でもそんな私が介護の仕事してるもんなあ』

彼女は今、老人介護の仕事をしている。


私は、こうした親友を持つことが出来て本当に感謝している。

そして、この紙面を読んでくださっている方々に関わる“小さなきょうだい”にも、よき友との出逢いがありますように...と思う。

まえほ通信

発行日	2015年2月1日
発行元	自立センター前穂 〒569-1022 高槻市日吉台 1番町21-18 072-689-8600



 交流 + 連携 + 情報発信

私共、前穂が障がいをお持ちの方々の、力強いパートナーであり続けるためには、障がい福祉の現場以外の方々との交流連携も重要であると考えてきました。以前より、「高槻商工会議所」の会員となり、提供される一般企業向けの研修に職員が参加して参りました。

この1月からは、別の異業種交流組織にも加入し、研さんを積むと同時に、障がいをお持ちの方々の世界を、ご存じない方々に知って頂くべく、より一層の発信に努めてゆきたいと考えております。

 クリスマスライブ報告



昨年12月24日、前穂にて毎年恒例のクリスマスライブを開催し、皆さん歌ったり踊ったりと大いに盛り上がりました。

今年も毎月のライブプログラムを開催予定しておりますので、どんどん皆さんお越しください。

